

おひざのうえで 2025①

(副園長の子育て応援 Letter)

「足し算のまなざし」

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで



お子さまのご入園・ご進級、おめでとうございます。

新しく園生活をスタートされるご家庭の皆さまは、これまでずっと「おひざのうえ」にいたお子さまが少し離れて過ごすことに、寂しさを感じておられるかもしれません。ですが、お子さまが帰ってきたときには、ぜひまた思いっきり「おひざのうえ」で甘えさせてあげてください。園長がよくお話しする「人類がなぜ月に行けたのかは、帰る地球があったからです。」のように、保護者の皆さんの存在こそが、子どもたちにとっての“帰る地球”＝安全基地です。子どもたちはそこでしっかりとエネルギーを充電し、翌日また幼稚園で頑張れると思います。そのような意味も含めて「おひざのうえで」(副園長の子育て応援 Letter)を折々に配信していきますのでどうぞよろしく願います。

私たちは子どもの育ちを「足し算」のまなざしで見えていくために、「リフレーミング」という視点を大切にしています。子どもの“できていない”に目を向けるのではなく、“やろうとしている姿”や“育ちつつある力”を見つけることを意識しています。その子の今をしっかりと受けとめてあげることで、次のステップへつながるサポートができると考えています。子どもは、一人ひとりのペースで少しずつ慣れていきます。焦らず、温かく見守っていただけたらと思います。園でも安心できる関わりを大切にしていますが、ご家庭でも、肯定的な声かけの力をお貸しください。「今日も頑張ったね」「行けたただけですごいね」「あなたはあなたのままで大丈夫」そんな言葉が、じんわりと子どもの心に届き、自信と安心につながっていきます。

4月の新しい環境の中で、子どもたちは日々たくさんの刺激を受け、自分で考え、少しずつ行動していきます。入園や進級、引っ越し、弟妹の誕生など、生活の中の大きな変化は、子どもにとって少なからずストレスになります。特に「入園」は、おうちの方と離れて過ごすという大きな一歩。その分、子どもの心は大きく揺さぶられますが、その心の揺れは、安心できる環境の中で次第に好奇心や意欲に変化していきます。そして、チャレンジが始まり、大きな成長へとつながっていきます。

「先生は何か困ったことがあれば助けてくれる人」「自分の気持ちをよくわかってくれる人」「不安な時はそばにいてくれる人」「面白いことを考えて楽しませてくれる人」と、子どもたちに安全基地のように思ってもらえるように、私たち職員みんな

「受け止め」と「寄り添い」の心で関わっていきます。まず大切なのは「安心」です。そのために、次のような配慮をしていきます。

1. 安心できる環境づくり

自分のロッカーや座る場所、道具やおもちゃがある場所を知ること、子どもは「ここは自分の居場所だ」と感じることができると、わかりやすい環境にしています。そうした“見通し”があることで、子どもは安心し、自分で考えて行動する力が育っていきます。また、知っている絵本やわかりやすいおもちゃを用意したり、最初はおもちゃや素材などモノに向き合っ心落ち着ける子もいますので、コーナーを多めに設けて、それぞれのやりたいことができるようにしています。

2. 肯定的な関わり

「どんなおもちゃがあるかな。今日は何をして遊ぼうかな。」と考えて登園してくる子もいれば、「何をするかわからないし、できるかどうかかわからないし、できなかったら誰に聞いたらいいかわからない。」とただただ不安な子もいます。クラスの先生たちは、子どもが、どんな思いでいるか、何を伝えたいと思っているのか、どうしたいと思っているのかを表情や目線や言葉、体の向きや力の入り具合など、その子が発する様々な情報から推察していきます。そして「悲しかったね」「わかるわかる」「いっしょにやってみようか」「教えてくれてありがとう。」と、寄り添いの言葉や肯定的な受け止めの言葉をシャワーのようにかけていきます。

3. わくわくする仕掛け

子どもたちが「明日も行きたい！」と思えるよう、毎日わくわくする仕掛けを用意しています。ひじりんからの手紙が隠されていたり、宝探しのようにみんなでおやつを探したり、「明日はどんなことをするのだろう」ときっと楽しみに becoming 来ると思っています。

最後に、子どもは、育つ力を自らの中にしっかりと持っています。けれど、ときには「大丈夫だよ」と、背中をそっと押してくれる誰かの存在が必要です。その“誰か”として、私たちも精一杯関わってまいります。どうかご家庭でも、「信じて見守る」「安心を与える」存在でいていただけたら嬉しく思います。



これからどうぞ、よろしくお願いいたします。

